

令和7年度 全国学力・学習状況調査 小林市の結果の概要について

小林市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の目的

- ① 全国的な小・中学生の学力や学習状況を把握・分析し、これまでの国の教育に関する取組の成果と課題を明らかにして改善を図っていくため。
 - ② 学校における児童生徒への指導の充実や生活習慣の改善等に役立てるため。
 - ③ これからの教育に関する継続的・効果的な取組を充実していくため。
- ※ この調査の結果はあくまでも学力の特定の一部であり、学校における教育の取組の一面ですので、この調査で児童生徒の全ての学力などがわかるものではありません。

2 調査期日と対象学年

調査期日：令和7年4月14日（月）～17日（木）

対象学年：小学校6年生、中学校3年生

3 調査の内容（調査の対象となる教科等）

国語、算数、または数学、理科、質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

4 結果の概要

(1) 教科に関する調査における概要

（小学校6年生）

国語は全国平均と同等ですが、算数と理科は全国平均をやや下回っています。

領域等別では、国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「変化と関係」、理科の「エネルギーを柱とする領域」で課題が見られました。

全問題の中で、特に課題が見られた問題は、国語の『目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題』、算数の『10%増量したつめかえ用のハンドソープの容量が、増量前の何倍かを選ぶ問題』、理科の『顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題』でした。

全国平均を大きく上回る問題としては、理科の『水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く問題』でした。

（中学校3年生）

国語、理科は全国平均と同等ですが、数学が全国平均をやや下回っています。

領域等別では、国語の「話すこと・聞くこと」、数学の「数と式」、理科の「粒子を柱とする領域」で課題が見られました。

全問題の中で、特に課題が見られた問題は、国語の『文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題』、数学の『素数の意味を理解しているかどうかをみる問題』、理科の『電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題』でした。

全国平均を上回る問題としては、国語の『登場人物が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く問題』、数学の『相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題』、理科の『電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想を選択することができる問題』でした。

(問題形式別による分析)

問題形式は、選択式、短答式、記述式の3種類があり、記述式の問題では、複数の考え方、答え方があるもの等について出題されています。

国語では、小学校、中学校ともに選択式に課題が見られ、算数・数学では小学校、中学校ともに記述式の問題に課題が見られました。理科においては、小学校で記述式に課題は見られませんでした。中学校では記述式に課題が見られました。

記述式の問題の無回答率は、全教科において全国平均を下回り、あきらめずに問題に取り組む姿勢が見られます。

(2) 質問調査における概要

(小学校6年生)

本市の児童の状況は、概ね全国平均を上回っています。特に下記の設問に当てはまると答えた児童の割合が、全国平均に比べ大きく上回っています。

- ・ 国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください。

(中学校3年生)

本市の生徒の状況は、概ね全国平均を上回っています。特に下記の設問に当てはまると答えた生徒の割合が、全国平均に比べ大きく上回っています。

- ・ 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ・ 人が困っている時は、進んで助けていますか。

(3) 「教科に関する調査」と「質問調査」のクロス集計から見られる傾向

正答率の高い児童生徒は、以下の設問によい傾向が見られました。【一部抜粋】

(普段の生活において)

- ・ 朝食を毎日食べていますか。
- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
- ・ 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。

(学校において)

- ・ 授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用しましたか。
- ・ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

5 これからの取組

本調査は、児童生徒の学力や学習の状況を把握し、児童生徒への指導の充実や生活習慣の改善等に役立てることを目的としています。

まず、各学校では、調査結果について全職員で分析を行い、全体的な傾向と、児童生徒一人一人のつまづきを把握します。全体的な傾向については、自校の分析・検証を行い、各教科での授業改善を行います。

また、児童生徒一人一人のつまづきについては、個に応じた指導内容を見極め、日々の授業等で確実に指導を行い、定着までの見届けを行います。

小林市教育委員会では、次の内容について、重点的に推進してまいります。

- クロス集計により、主体的に学ぶ児童生徒の正答率が高い傾向にあることを踏まえ、教師主導型の授業から、子どもが主体となる授業への転換を推進し、学びに向かう力を育む授業の具現化を図ります。
- 授業において、知識・技能及び思考力・判断力・表現力をバランスよく育むために、ICTを効果的に活用し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の推進を図ります。
- 本市の児童生徒は、地域・社会に貢献しようとする意識が高いことから、今後も地域人材や教育的資源を生かした教育の充実を図り、郷土愛を育む教育に取り組めます。